

ASEAN 人材育成奨学パートナーズ支援（AHEAD50）

ASEAN 事務局 金融統合課職員 招へいの記録（短期招へい第 2 陣）

1. プログラム概要

【目的・概要】

ASEAN 事務局金融統合課の職員 4 名が、2025 年 11 月 9 日から 11 月 15 日にかけて、日本のサステナブル・ファイナンス、デジタル化、災害リスクの資金調達及び保険に関する取り組みへの理解を深めるために訪日しました。本プログラムは、金融包摂と金融安定性を推進するための戦略的アプローチについて知見を得るとともに、ASEAN の金融統合をさらに進める取り組みを支援することを目的として実施されました。

【AHEAD50】

AHEAD50（ASEAN Human Educational Development Scholarship Partners）は、日本 ASEAN 友好協力 50 周年を契機に開始した招へい事業。ASEAN 事務局等の有望な職員に対し、日本の政策・制度・立場等につき学ぶ機会を提供し、人材育成を通じて ASEAN 事務局の強化を図るとともに、日本との円滑な協力を促進することを目的としている。

【参加者】ASEAN 事務局金融統合課職員 4 名（課長級 1 名、上級職員 2 名、職員 1 名）

【訪問地】東京都、京都府

【日程】

- | | |
|----------------|--|
| 11 月 9 日（日曜日） | 成田国際空港より入国 |
| 11 月 10 日（月曜日） | 【講義】「ASEAN の金融デジタル化と金融包摂」
講師：公益財団法人国際通貨研究所 経済調査部 福地 亜希 主任研究員
【講義】金融庁
「日本におけるフィンテック：現状と主要な課題」
講師：
金融庁 総合政策局暗号資産・ブロックチェーン・イノベーション参事官室
富田 絢子 課長補佐
「持続可能な金融に関する日本の政策的取り組み」
講師：
金融庁 総合政策局サステナブル・ファイナンス推進室 篠原 めい 課長補佐 |
| 11 月 11 日（火曜日） | 【講義】「DRFI における SEADRIF の取り組み」
講師：財務省国際局地域協力課 柳澤 龍馬 課長補佐
東京都から京都府へ移動 |
| 11 月 12 日（水曜日） | 【講義】「日本の気候変動政策及び再生可能エネルギー政策」
講師：京都大学大学院 経済学研究科 諸富 徹 教授 |
| 11 月 13 日（木曜日） | 【視察】比叡山延暦寺 |

京都府から東京都へ移動

【講義】「トランジションファイナンス」

講師：経済産業省 GX グループ環境金融室 森本 有香 室長補佐

11月14日（金曜日） 【ワークショップ】 報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

【報告会】 訪日成果・帰国後の活動計画発表

11月15日（日曜日） 成田国際空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム



11月10日【講義】
「ASEANの金融デジタル化と金融包摂」



11月10日【講義】 金融庁



11月11日【講義】
「DRFIにおけるSEADRIFの取り組み」



11月12日【講義】
「再生可能エネルギー経済学」



11月12日【文化体験】 茶道体験



11月13日【視察】 比叡山延暦寺



11月13日【講義】
「トランジションファイナンス」

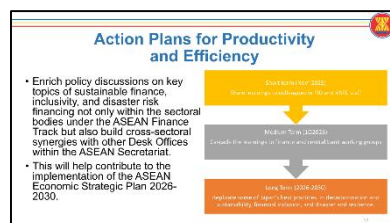
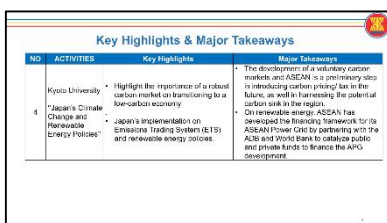


11月14日【報告会】
集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

- ◆ 日本におけるGX（グリーン・トランスフォーメーション）の取組は非常に興味深く、感銘を受けました。現在、ASEANではトランジション・エコノミーに向けた取り組みが進められています。日本の経験をASEAN加盟国と共有し、日本がこれまでに実施してきた取り組みを踏まえた提言を行っていきたいと考えています。
- ◆ 本プログラムの各セッションは、講義、特に質疑応答を通じて、日本におけるデジタル化、金融包摂、持続可能金融に関する取組について、チームの理解を主に深めることに寄与しました。これにより、日本とASEAN間における共通の関心分野を探る上で有益な示唆が得られたと考えられます。特に、日本のサステナビリティ及びトランジションファイナンスに関する取り組みは、ASEANで現在進められている施策と方向性を同じくする重要な例です。

4. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）



【成果の発表】

- ◆ 訪日中の学び
サステナブル・ファイナンス、金融包摂、災害リスクファイナンス、デジタル化について理解を深めました。
- ◆ 主な気付き／日本の取り組み
 - ・ 金融包摂：郵便局やコンビニなど既存のインフラを活用し、地方の金融アクセスを改善。
 - ・ サステナブル・ファイナンス：国内ニーズに合わせたソーシャルボンド、GX（グリーントランスフォーメーション）による脱炭素化とトランジションファイナンス。
 - ・ 災害リスクファイナンス：SEADRIF（東南アジア災害リスク保険ファシリティ）による地方のリスクプーリング、日本のドナー拡大への取り組み。
 - ・ 気候変動とエネルギー：カーボン市場と再生可能エネルギー政策による低炭素経済への移行。
 - ・ イノベーション：暗号資産の規制とフィンテック支援。

◆ 今後の展望

ASEAN と日本の協力を強化し、サステナビリティ、金融包摂、災害リスクファイナンスを推進するとともに、カーボン市場や知識共有のプラットフォームを通じて地域の脱炭素化を促進します。

【アクション・プラン】

短期（2025 年 11 月）： FID（金融統合部）及び ASEAN 事務所内で学びを共有します。

中期（2026 年第 1 四半期）： 共有範囲を広げ、ASEAN の金融・中央銀行関連ワーキンググループにも知見を共有します。

長期（2026～2030 年）： 日本のベストプラクティスを ASEAN 諸国内の脱炭素化、金融包摂、レジリエンス分野で活用できれば最善です。

ASEAN Finance Track（財務トラック）全体で政策議論を深め、ASEAN 経済共同体（AEC）戦略計画（2026～2030 年）の実現に貢献していきたいと思います。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）